

流域治水オフィシャルサポーター交流会 ポスター集

11 月 22 日

国土交通省 水管理国土保全局 治水課

教育・ワークショップ

株式会社ニュージェック	2
一般社団法人環境文化研究所	3
一般社団法人中部地域づくり協会	4
損害保険ジャパン株式会社	5
オフィス気象キャスター株式会社	6
特定非営利活動法人水・防災機構	7
特定非営利活動法人気象と地域防災フォーラム	8
特定非営利活動法人気象キャスターネットワーク	9
株式会社建設技術コンサルタンツ	10

技術・ツール

株式会社日立製作所	12
株式会社 建設技術研究所	13
日本工営株式会社	14
株式会社日立パワーソリューションズ	15
やまがた メイカーズ ネットワーク	16
株式会社ティディイー	17
日之出水道機器株式会社	18
八千代エンジニアリング株式会社	19
株式会社ヤマチコーポレーション	20
大和ハウス工業株式会社	21

広報

一般財団法人 北海道河川財団	23
一般社団法人 パブリックサービス	24
株式会社毎日新聞社	25
株式会社エイト日本技術開発	26
アジア航測株式会社	27

地域密着

宮坂建設工業株式会社	29
りゅうちるネットワーク	30

環境

MS&AD インシュアランスグループホールディングス株式会社	31
三井住友海上火災保険株式会社	32

その他

公益財団法人リバーフロント研究所	34
------------------	----

教育・ワークショップ

株式会社 ニュージェック の流域治水に関する取り組み

水害に関する

防災教育出前講座の実施

子ども向け

社員有志のチーム

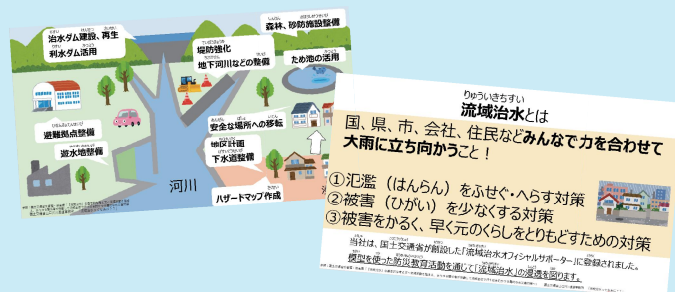
通称 N-EXPO (ネクスポ) です！



2022 年より、関西の小中学校やイベントを中心に
水害に関する子ども向けの防災教育出前講座を
無償で実施しており、その中で「流域治水」の
考え方やその重要性について説明しています！

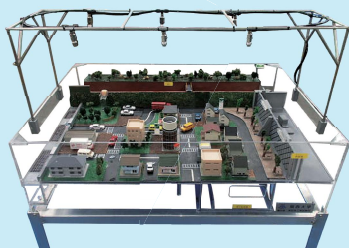
【流域治水の説明】

子どもたちに、流域治水は、「国、県、市、社会、
住民などみんなで力を合わせて大雨に立ち向かう
こと！」と伝えています。子供たちが理解しやすい
ようフリップを作成しました！



【都市型水害の解説】

実際に水の流れるジオラマ模型を使用して都市
型水害（内水・外水氾濫、津波、地下浸水）の
様子を再現し、どう
いう時に街が危険な
状態になるのかやメ
カニズムを解説して
います！



【防災クイズ】

「雨が降ったら川の水はどうなる？」、「避難
時に履く靴で適切なものは？」などの3択クイ
ズを出題しながら、
水害の危険性や避難
時の注意点について
解説しています！



【水害時の避難の擬似体験】

自社開発の河川氾濫体験アプリ「オソレル」
を使って、水害発生時の避難所までの移動を
PCゲーム形式で擬似体験してもらいます！



【ハザードマップの確認】

講座実施校地域のハザードマップを一人
一枚配付し、子どもたち一人一人と一緒
に浸水深や危険箇所について確認し合っ
ています！





タノシクボウサイ 防災レース



背景

01

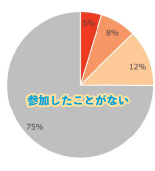
線状降水帯の発生は、かつて想像しなかった地域にも豪雨をもたらし、浸水被害が多発している。住民は災害発生時に誰かに指示されて避難するのではなく、自助の力と共助の力を高め、即座に行動できることがますます重要となる。この力は生命と財産を守るために必要な「生きる力」であり、河川の恩恵と災害と共生し続けるためには欠かせないものである。



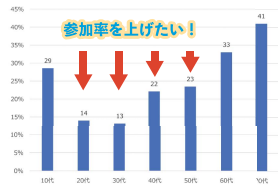
目的

02

避難所では、中高生の支援が大きな力となっているケースが多い。そのため、家族と共に参加し、自助や共助を高める機会を増やしたい。また、企業や団体の社員が災害時に地域を支援できるよう、チームビルディングを育成する機会にもしたい。この防災レースでは、現場に居合わせた人々が即席のチームを組み、防災力とチーム力(共助)を発揮できることを目指している。



■ 図 防災訓練への参加(参加したことがないが75%占める)
NTTドコモ モバイル社会研究所より抜粋



■ 図 防災訓練への年齢別の参加率(最も低い20-30代は働き盛り世代でもあり親世代でもある)
NTTドコモ モバイル社会研究所より抜粋



内容

03

■思考 OODAループ

OODAループにより、目の前の状況を観察し、状況判断を行い、グループで意思決定をして行動に移す。瞬時に行うことで、確実な行動力へとつながられる。

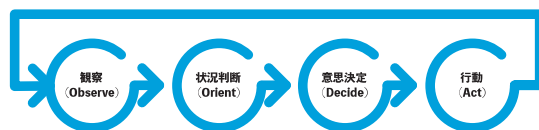


図 OODAループの流れ

■地域の浸水状況を理解

住居や職場など、普段生活している場所の周辺リスクを理解することが大切だ。まずは、ハザードマップで広域の浸水リスクを把握し、「浸水ナビ」を活用して氾濫時の浸水までの時間や水深をシミュレーションする。これにより、垂直・水平避難の経路や避難場所の選定に役立てることができる。



■まちが浸水した！レース形式で楽しく救助

ライフジャケットを着用してチームで浅瀬を歩いたり、ロープを掴んで川を渡ったり、障害物を避けながらボートを漕ぐレースを行う。「まち」が浸水した状況を想定し、いざという時に備えて、とっさの防災力とチーム力をゲーム感覚で養う内容となっている。



感想と今後の展開

04



深さが3メートルなので少し怖かったですが、Eボートで担任の先生を救助できてうれしかったです。



防災は緑が遠いイメージだった。今回、遊びの要素があって、楽しみながら参加ができたのが良かった。

ライフジャケットの着方などが分かりました。災害の時に、助けられるように頑張ります。



自然の中でみんなと協力し合うのは良いですね。災害のパニックの中で誰かと冷静に協力することができたらと思います。



もっと

身近なモノや場所を使った
防災レース

新たにレース種目を計画中 乞うご期待！

水汲み
レース

火おこし
レース

水の浄化
レース

クッキング
レース

避難移動
レース

流域川柳
レース

地名妄想
レース



一般社団法人 **環境文化研究所**
福井県越前市 e-labs.jp



(一社)中部地域づくり協会は流域治水オフィシャルサポーターです。

大切な命を守るために… 流域治水の取り組み

守られる人から守る人へ。

将来を担う若い世代に「浸水体感VR（仮想現実）」「AI（対話型人口知能）」などを活用して、過去の災害や事前の備えを学ぶことで、「守られる人から守る人へ」の防災教育を視野に、避難インフルエンサーの育成に向けた防災講座を実施しています。



弥富市立桜小学校



郡上市立八幡小学校



愛知県立港特別支援学校



岐阜市立藍川北中学校 マイタイムラインの作成



関市立関商工高等学校

防災講座は延べ150*校で実施し、受講した児童・生徒・学生は約10,000*人、VR体験者は防災講座やイベント等で延べ約8,700*人となっています。

※令和6年10月15日時点

大雨から大切な命を守る！ 誰ひとり取り残さない地域社会を目指して。

伊勢湾台風から 65年 AI語り部で次世代へ
つなく新たな取り組み



対話型人口知能 (AI) を活用し、
バーチャル語り部との
対話から伊勢湾台風を
学習できるシステム
じゃ！

ねえねえ 教えて！伊勢湾台風

未来に繋ぐAI対話システム

START

AIの回答は必ずしも正しいとは限りません。重要な情報は確認するようにしてください。

© 2024 一般社団法人中部地域づくり協会 All rights reserved.

VR体験や防災イベント、市民向けの防災講座など、国・自治体等の様々な機関と連携し「大雨から大切な命を守る！誰ひとり取り残さない逃げ遅れゼロに



豊橋市外国人防災リーダー養成講座

向けて住民避難を後押しする取り組みを進めています。



伊勢湾台風65年企画展
(名古屋市防災センター)
でバーチャル語り部との
対話を体験する
子どもたち。



木曽岬町防災フェア



国土交通 Day

取り組みの詳細は
こちらから▶



流域治水



一般社団法人 中部地域づくり協会

SOMPO流

「逃げ地図」づくり ワークショップ

災害で悲しむ人をゼロに！

※「逃げ地図」は株式会社日建設計の登録商標です

逃げ地図づくりの概要

- ◆ 最も近い避難地点までの時間を色鉛筆で塗り分けた**手づくり**の地図です。
- ◆ 避難経路が色塗りされることで、直感的に危険な場所と逃げる方向を理解することができます。
- ◆ 地図を見ながら参加者同士で話し合うことがワークショップの特徴で、性別や世代に偏りのない多様な関係主体が参加することで、地域課題の発見や世代間の**リスクコミュニケーション促進**にもつながります。



ワークショップ内容



ワークショップの流れ

- 逃げ地図のつくり方と活用例紹介
- 逃げ地図作成
- 逃げ地図を見ながら話し合い
- 発表会
- セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの「子どものための心理的応急処置」の紹介

募集要項

対象／地域の関係者、企業、学校など
参加費／無料

お問合せ

損害保険ジャパン株式会社
最寄りの営業店舗は、こちらからお探してください。
HP : <https://www.sompo-japan.co.jp/tenpo/e/>

所要時間：2時間程度





気象キャスターによる

出演

講演

お天気教室

なら

オフィス気象キャスター株式会社

日本海テレビ「One LIFE NEWS」出演中
町田 朱理

地域に寄り添う、気象コミュニケーションを目指して

オフィス気象キャスター株式会社は、全国各地のテレビ局に気象予報士を派遣し、地域に密着した気象情報をお届けしています。

また講演会や子ども向けのお天気教室などを通じて、気象や防災の知識を多くの方々に広め、災害から身を守るための方法をお伝えしています。子どもたちにとって学びの場となるお天気教室は楽しみながら気象の仕組みや防災について学べると好評をいただいております。



NHK「ニュース7」出演中
向笠 康二郎

一般・企業・自治体向け

マイ・タイムライン講習会

マイ・タイムラインとは「住民一人ひとりの防災行動計画」のことです。台風が接近して大雨が降ると予報が出た際、いつまでに、どこに避難すれば良いのか、持ち出し品は何か、などの計画を作成します。

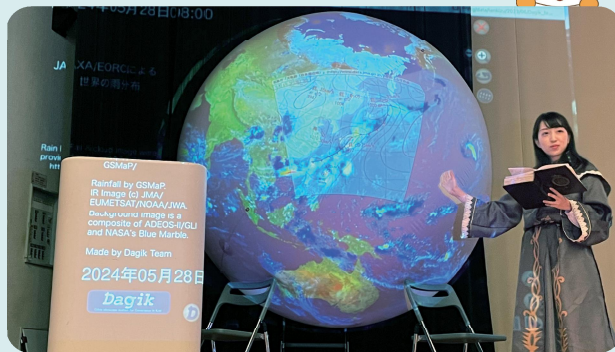
オフィス気象キャスターでは、マイ・タイムライン講習会に気象予報士を派遣したり、運営補助を行ったりしています。気象予報士・防災士の資格に加え、流域治水アンバサダーとして委嘱を受けた専門知識を持つ講師がわかりやすくお伝えします。



子ども向け

お天気魔法教室

天気や防災に興味のない子でも参加しやすい、ゲームのような世界観を再現したお天気教室を実施しています。お天気パンダというキャラクターと、魔法使いに扮した気象キャスターと一緒に、楽しみながら天気や川の防災について学ぶことのできる講座で、流域治水の一環でもあります。全国各地で開催していますが、特に神奈川県川崎市での実施回数が多く、2024年は川崎市内の子ども文化センターを訪問し、全11回のお天気魔法教室を開催しました。



マイ・タイムライン講習会 開催経歴

- ・本の森ちゅうおう（東京都中央区）
- ・ミズベリング三条（新潟県三条市）
- ・米子コンベンションセンター（鳥取県米子市）
- ・茜ヶ丘複合施設「みらいえ」（兵庫県西脇市）
- ・イオンモールとなみ（富山県礪波市）
- ・滝野図書館（兵庫県加東市）
- ・つるぎ町就業改善センター（徳島県つるぎ町）
- ・東住吉区民ホール（大阪府東住吉区）
- ・コミュニティセンターなかさと（滋賀県野洲市）
- ・笠田東児童館（和歌山県かつらぎ町）
- ・信濃川下流河川事務所（新潟県長岡市） など

多摩川流域で流域治水自分事化の取り組みを進めています。



特定非営利活動法人水・防災機構

私たちは川崎市のこども文化センターとの協働などにより、多摩川流域に住む子どもと保護者に向けて、川のこわさ、川の楽しさ、天気の不しぎについて工作や実験を通じて分かりやすく理解を深めるとともに、流域治水の自分事化に向けた活動を行っています。



流域治水アンバサダーの委嘱を うけました。



NPO法人気象と地域防災フォーラム



NPO法人気象キャスターネットワーク

私たちは流域治水の国民への浸透を目指す活動を提案し、所属する気象キャスター・気象予報士35名が関東地方整備局、近畿地方整備局より「流域治水アンバサダー（防災気象情報）」の委嘱を受けました。



国土交通省の講演、
講習会などで講師や
パネリスト等として
活動を行っています



流域治水アンバサダー35名はこちら→



え！？ 甲突川も氾濫するの？

流域治水に関して知ること命を守れる！？

私たちでできることはあるの？



そもそも
流域治水って
なに？

流域を俯瞰した
みんなの取り組み
山・川・海
全部含めて流域治水

甲突川も
氾濫したことあるの？

H5年 8.6 水害
甲突川などが氾濫し
沿川は甚大な被害

流域治水は
誰が助かるの？

地域・流域の被害を知る
対策を知る
目的・効果を知る
地域・流域に貢献する

持続的に開発を進め
社会的機能を
維持しながら
災害に備える二刀流

まちづくりや
住み方で
できる工夫はあるの？

家庭用タンクなど
個人でできる
治水対策も！

災害情報は
誰でも入手できるの？
お年寄りの方達に
早く知らせたい！

水災害リスクを知る
何をすべきか考える
的確に行動する

水災害を自分事化して
みんなで地域・流域
に広めよう

りゅう いき ち すい 流域治水



水災害を自分事化し
防災・減災を考えよう



川でたのしみ 川をまほお
かわがく

大規模な水災害に備え、水災害に負けない地域づくりに向けて流域が一带となった防災・減災を知る機会として、「甲突川」はじめとした鹿児島県内の河川を会場に、小さなお子さんを含めた家族で楽しみながら学ぶ体験型イベント「かわがく」を実施中。イベントを通じて川を身近に感じていただきながら、治水対策について学び、自分たちとして何ができるか？を考えるきっかけを創り、命を守る行動に役立てる啓発活動です。



流域治水

「流域治水」は、流域の様々な関係者が連携し、治水に取り組む対策です。

株式会社建設技術コンサルタンツは、流域治水オフィシャルサポーターです。

技術・ツール

株式会社日立製作所 メディア対応を通じて、流域治水の認知アップに貢献

メディア対応を通じて「流域治水」の周知活動に取り組んでいます。

取組実績



「逃げ遅れゼロ」「命を守る行動」への貢献！

シミュレーションや予測に基づく住民の避難計画立案などの、流域治水のコンセプトを社会に啓発することができた。



読売テレビ報道番組「ウェークアップ」にて 洪水予測の技術・重要性を紹介

2024年7月に、当社の「流域治水 浸水被害予測システム」が、最先端の技術としてテレビで放映された。報道の反響は大きく、流域治水のコンセプトへ社会の関心を高めることに成功した。



COP28にて世界的な気候変動による 水害への対策を訴求



2023年11月にドバイで開催された、国連の気候変動枠組条約第28回締約国会議(COP28)日本パビリオンにて、当社開発の水害シミュレーションウェブアプリFloodSを展示した。気候変動への適応として、水害に強いまちづくりを目指す流域治水の必要性を世界に向けて発信した。



今後の活動方針

日本では近年、気候変動により水害が増加・激化しており、皆様も不安を感じられていることでしょう。そのようななか、2021年「流域治水関連法」に続き、2024年8月に新たな「水循環基本計画」が閣議決定され、水災害の軽減や水資源の有効活用を目指す総合的な水マネジメントが重要になっています。

当社は、浸水シミュレーションと避難・緊急活動を支援するアプリを連携させ、流域自治体が浸水予測と施設情報を共有できるようにすることで、水害対策に貢献し、「流域治水」の実現を目指します。

HITACHI
Inspire the Next

ハザードマップでは
わからない！



Riskma なら！
このエリアです！！

いまから **Now!!**
浸水しそうな場所はどこ??

洪水被害の起こる危険性が
高い地域を予測できます

無料

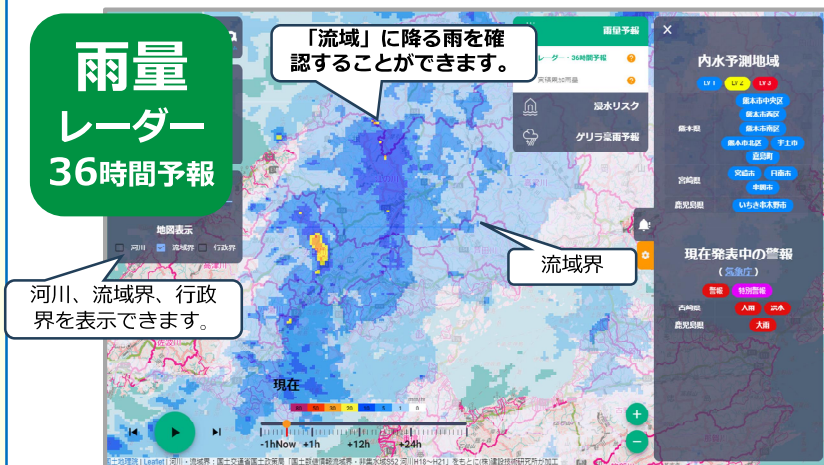
いつでも・どこでも・誰でも見られます！

Riskma 一般公開中

<https://www.riskma.net>

「レーダー・36時間予報」で雨をキャッチ!!

スマホでも閲覧可能！

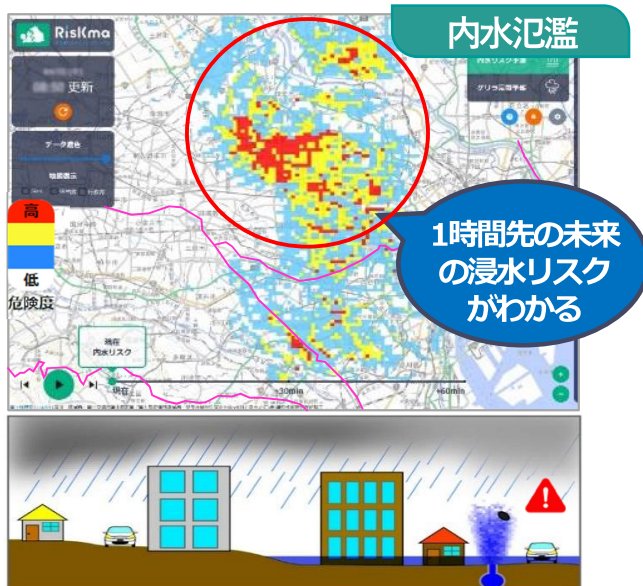


36時間先までの雨量分布予報、実績の累加雨量分布
を5分おきに提供しています。

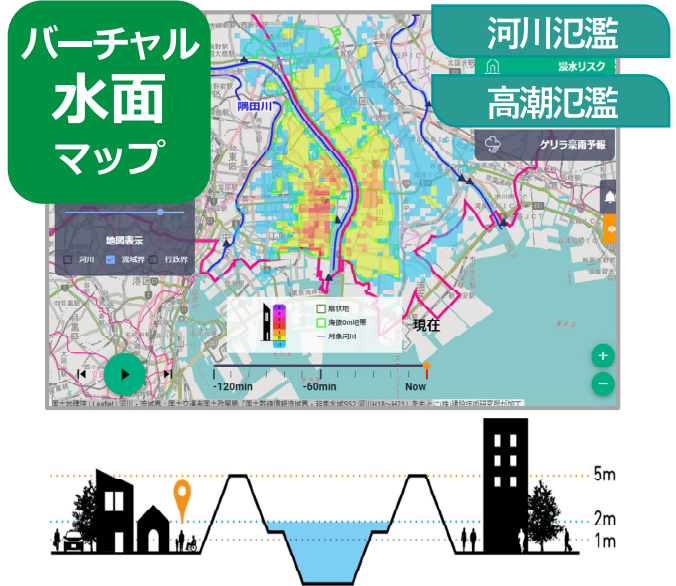


地方でも
全国に対応！

自分の居場所の浸水リスクをキャッチ！



まちなかの小水路やマンホールからの溢水といった「内水氾濫」による浸水リスクを確認！
(60分先までの予測、5分間隔で更新)



もしも堤防がなかったら、どれくらい浸水する
恐れがあるかを確認！
(現時刻の状況、10分間隔で更新)

1. 福島県いわき市での取り組み

福島県いわき市と流域治水の推進に関する連携協定を締結

福島県いわき市 日本工営(株)

流域治水の推進

連携式

市流域治水推進会議

- 流域治水に関する情報共有や防災プラットフォーム(防すけ®)の実証を連携・協働しながら行うことで流域治水を推進し、いわき市内の水害の防止・軽減を目指した取り組みを実施。
- 令和5年9月に台風第13号が発生し実際に防すけ®を活用。市職員からは地域防災上の有用な情報を得られることに期待できると評価。
- 災害対応に従事する職員の情報共有や災害時の備えを目的に、災害時情報共有システムや予測雨量閲覧システムの有効性・機能性評価に係る意見交換、ビーコン活用による防災訓練を実施。

○防災プラットフォームダッシュボード

災害情報提供の高度化、災害対応の効率化

災害対応・避難行動に必要な情報を一元化し、ダッシュボード画面

視認性の高い危険情報の表示

現地映像をリアルタイム表示

地図上にアラート表示

水位・雨量の予測データを表示

○予測雨量閲覧システム

(降雨発生時間帯帯) 災害時の備え

- 11日前からの全球アンサンブル予測の推移を示しています。
- 実績雨量と比較しながら予測の確実度の変化を確認できます。
- 雨量は、実績・予測ともに流域平均で表示されています。
- この画面は日本工営の特許技術が含まれています。

アンサンブル予測の集まり具合から判断して、現在の降雨は、5日前頃から予測できていたと考えることができます。

○災害時の情報伝達

災害時の情報共有

災害時の情報共有システム

避難行動モニタリングの概要と分析結果例

地域住民の避難意識向上

○災害時情報共有システム

災害時の情報共有

避難行動モニタリングの概要と分析結果例

地域住民の避難意識向上

○避難行動モニタリングの概要と分析結果例

地域住民の避難意識向上

避難準備時間(分) 避難時間(分)

避難準備時間(分) 避難時間(分)

2. 国土交通省中部地方整備局浜松河川国道事務所での取り組み

「静岡県西部地域版」遠州流域治水オフィシャルサポーター制度の創設

遠州流域治水オフィシャルサポーター制度の創設

- 流域治水プロジェクト2.0を策定し、地域のあらゆる関係者と協働して流域治水を推進。
- 流域治水に資する取り組みを促進するため、遠州流域治水オフィシャルサポーター制度を創設。
- スズキ株式会社と株式会社静岡新聞社のご協力により、民間企業との取り組み連携を先行実施。

○遠州流域治水オフィシャルサポーター制度の概要

項目	内容
目的	流域治水協議会・大規模氾濫減災協議会における取組実施上の課題解決に向けて民間企業等と連携し、より一層取組を推進・深化することを目的に創設(令和6年3月25日の協議会で承認され、現在運用中)
対象者	民間企業、市民、団体、大学・研究機関(遠州流域治水オフィシャルサポーター制度規約に基づき認定)
実施事項	取組実施上の課題、課題解決に向けたサポート提案等に係る意見交換(懇談会)を実施

○天竜川(下流)流域治水プロジェクト2.0

位置図

天竜川(下流)流域治水プロジェクト2.0

天竜川(下流)流域治水プロジェクト2.0

○スズキ株式会社との連携取組

【協議会の取組項目】:要配慮者避難確保計画作成・訓練実施

【連携取組内容】:セニアカーを活用した避難訓練

○株式会社静岡新聞社との連携取組

【協議会の取組項目】:水害リスク情報の共有による確実な避難の確保

【連携取組内容】:新聞紙面やラジオを活用した流域治水等の防災啓発

株式会社日立パワーソリューションズ シミュレータで流域治水を支えるエンジニア育成に貢献

取組実績

1. 流域治水に関するセミナーを開催（2024年7月開催）

流域治水をテーマにしたセミナーを開催。

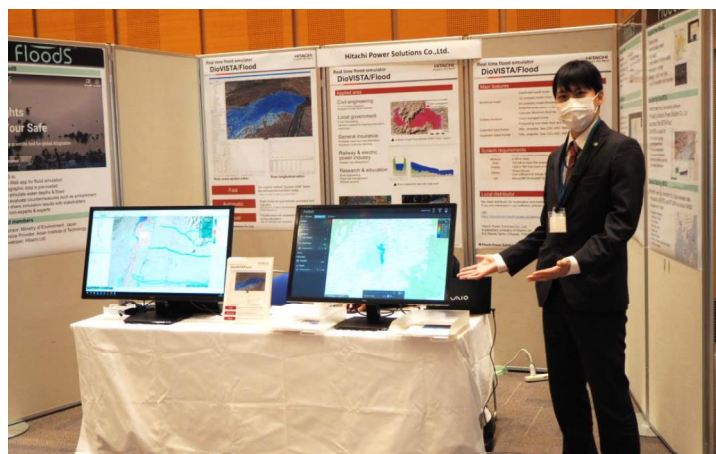
流域治水の提唱者である滋賀県立大学 瀧健太郎教授に流域治水の理念と実践についてご講演いただいた。

参加者は、当社製氾濫シミュレーションソフトの操作演習を通じ、科学にもとづく流域治水の重要性の理解を深めた。



2. 洪水管理国際会議で展示

洪水管理国際会議ICFMにて当社製ウェブアプリ「FloodS」を展示。全世界どこでも氾濫シミュレーションを実施可能なツールを無料で提供することで、自発的なハザードマップの作成と対策検討を支援。



3. シミュレータ操作の集中講義

アジア工科大学（タイ・バンコク）にて、気候変動適応のための治水の実践について講演。アジア8か国の技術者約30名が参加し、当社製氾濫シミュレーションソフトにもとづく定量的な流域治水の実務演習を実施。



参加者の声（一部）

- ・ 瀧先生ご紹介の「地先の安全度」等のリスク評価手法等について学ぶことができました。そうした流域を一体的に広範囲にわたってリスク評価するうえで、DioVISTAは迅速にモデル構築や解析が行うことができるツールとして有用だと感じました。
- ・ 流域治水を行うには、住民や利害関係者が理解して納得することが大前提ですが、DioVISTAのようなシミュレーション技術で科学的な知見を導き、わかりやすく可視化することで合意形成に役立つと感じました。

山形県天童市立寺津小学校の地域水害学習の取組みを支援

第6学年「洪水の危険性を伝えよう」

発表 令和2年11月28日(土) 郷土Yamagataふるさと探究コンテスト(優秀賞受賞)
 展示 公民館、市役所、県庁、県産業科学館などの展示に広がっていた。

全体地図(8×8分割:64分割)
 右地図の赤線 枠内を立体化した。
 緯度:38.332775~38.4016090
 経度:140.289230~140.377121
 南北:7.64km 東西:7.68km
 A-1,A-2,A-3,A-4,A-5,A-6,A-7,A-8
 H-1,H-2,H-3,H-4,H-5,H-6,H-7,H-8
 のブロックに64分割
 1ブロックの大きさ
 (縦)140mm×(横)140mm
 縮尺(南北)1/6821 (東西)1/6857
 高さ倍率:10倍



立体化した地図の区域
 (国土地理院ホームページ地理院地図より)

3Dプリンターによる立体地図



浸水実験・観察



発 展
 この取り組みを契機に、「やまがた メイカーズ ネットワーク(略称:YMN)」では、令和5年4月21日に山形県東村山郡中山町石子沢川流域の3D-MAPを国土交通省山形河川国道事務所に提供することにつながった。

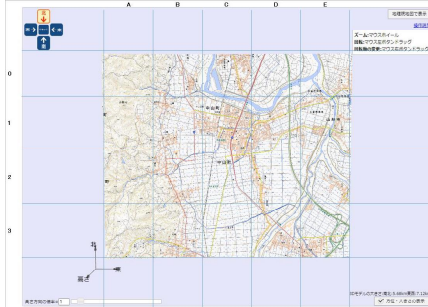
山形県東村山郡中山町石子沢川流域3D-MAPの提供

中山町石子沢川流域3D-MAPを作成して国土交通省山形河川国道事務所へ提供

期日・場所 令和5年4月21日(金)10:30~ 国土交通省山形河川国道事務所

地図データの作成:「国土地理院ホームページ地理院地図」を使用した。
 (https://maps.gsi.go.jp/#13/38.367233/140.333176/&base=std&ls=std&isp=1&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1)

地図(5×4分割:20分割)
 右地図の赤線 枠内を20分割し、立体化したもの
 南北:5.66km
 東西:7.12km
 0-A、1-A、2-A、3-A
 0-E、1-E、2-E、3-E
 20分割



石子沢川流域3D-MAPの区域
 (国土地理院ホームページ地理院地図より)

3Dプリンターによる3D-MAPの作成

上記の5×4枚のうち次の4×3枚をYMN3Dプリンターで作成し、提供を行った。

1-A、2-A、3-A
 1-B、2-B、3-B
 1-C、2-C、3-C
 1-D、2-D、3-D



3Dプリンターによる石子沢川流域3D-MAPの提供

3Dプリンターを活用した立体地図の作成による防災研修会の支援

防災研修会において、本会が作成した石子沢流域3D-MAPの紹介

日 時: 令和5年11月18日(土) 10時~12時30分

場 所: 山形県東村山郡中山町中央公民館大ホール

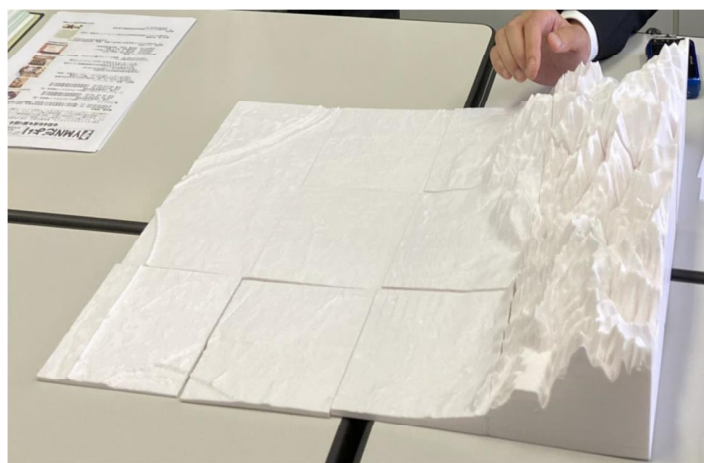
内 容: 区長研修会(防災研修会)

①特定都市河川制度について

②避難行動計画(マイタイムライン)の作成について

講 師: 今野浩一氏(国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所流域治水課長)

参加者: 中山町(石子沢川流域)の区長様、中山町総務広報課様



Know!

— 知って、試して、活用しよう！DXを活用した流域治水！ —

センシング技術<IoT・DX>を活用した “気軽”にできる流域治水・防災減災を地域に広めたい。

昨今の異常気象による災害の激甚化・頻発化、そして既存インフラの老朽化などから、地域ではどんどん「防災力・減災力」が低下してきています。

そんな中、デジタル技術の進歩により、小型で低価格かつ長寿命のセンサーが出始め、財源やマンパワーが不足している地域でも、気軽に「防災・減災」に取り組める環境になりつつあります。

テイデイーでは、こういったセンシング技術<IoT・DX>を活用することで、地方の自治体や企業・団体・個人でも、気軽にできる「流域治水」「防災減災」が広まるよう「知る！」「試す！」「活用する！」をキーワードに普及および広報活動を行っています。

「知らない」→「知ってる！」に変えたい

自治体・企業・団体を回る中で、「流域治水がよくわからない」「DXがよいものかわからない」「そんな取り組みがあるとは知らなかった」「どう活用ができるの？」という声を聴くことが少なくありませんでした。

流域に関係する全ての人の「知らない」を「知ってる！」に変えることでDXを活用した流域治水に興味を持ってもらえるのではないかと。

そのために、テイデイーでは、国土交通省の新技术の活用のひとつである「ワンコイン浸水センサ実証実験」に参加し、自治体と共に浸水センサの活用を行ったり、得られた知見を他の自治体と共有しながら、ワンコイン浸水センサおよび実証実験の普及活動を行っております。また浸水センサ以外にも、危機管理型水位計や傾斜センサーなどの普及活動なども精力的に行っております。



R6年度 自治体への浸水センサの説明



R6年度 ワンコイン浸水センサ実証実験 機器設置

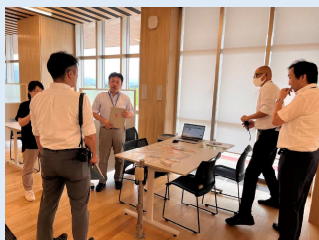
「わからない」→「試す！」で変えたい

流域治水やその取り組み、センシング技術やDXの活用を知っているとしても、それらが地域にとって“良いものなのか？”は使ってみなければわかりません。さまざまな情報を広報、共有しても、「そうなんだ」「へー」で終わってしまうことも多いです。

「イメージがでない＝わからない」から、新しい取り組みに躊躇してしまうのではと考え、テイデイーでは「わからない」を「試す」ことで解決していきたいと考えております。

そのため、センシング技術<IoT・DX>に興味がある自治体などには、機器費・通信費・設置費などをテイデイーで負担し、無償で試してもらうといった取り組みも行っております。

また、既存のセンシング技術の新たな活用や、他団体・企業などとのコラボレーションなども積極的に行っております。



R6年度 浸水センサを活用した防災訓練



R6年度 流域治水オフィシャルサポーター 国権堀土地改良区様とのコラボ 田んぼでの水位センサの有効性に関する実証

「No」を「Know!」に変えて、 「不可能」を「可能」に変える！

今まで地方ではたくさんの「できない・わからない・しらない」がありました。しかし、デジタル技術<IoT・DX>の進歩により、それらの不可能が可能になりつつあります。今こそ「No」を「Know!」に変えることで、新しい地域に合った「流域治水」「防災減災」を、みんなで創っていききたい！

テイデイーは、大きな企業でもなければ、影響力を持っている企業でもありません。ですが、地域に根付いた企業として、国や都道府県、市区町村、企業や団体、個人とのつながりから、共に悩み、困りごとを解決できるような企業として、これからも「流域治水」を促進していきます。

「ひとつの命を救うのは、無限の未来を救うこと。」
未来の子供たちが安心して帰ってこれる場所を守るため、これからも頑張っていきます。



R6年度 水防協力団体認定に向けて水防訓練参加



R6年度 テイデイーで流域治水のお話をさせていただいた企業 株式会社ヤマコ一様が山形河川国道事務所 流域治水課 様の協力のもと、山形県内にある東北最大のテーマパーク「リナワールド」で流域治水の出展講座などを行った



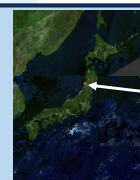
TDE 株式会社 テイデイー

本社：山形県酒田市
設立：昭和61年12月
資本金：¥29,000,000-
従業員数：23人

業種：建設業
主な業務内容
下水道事業の設計、施工、維持管理
揚排水機場などの機械、電気設備工事
制御盤などの設計、設置、維持管理

住所：山形県酒田市京田二丁目53番地の5
TEL: 0234-31-4511 FAX: 0234-31-2205
担当：技術営業部 園部

16



テイデイーはここ！！！！

東北・山形、いいどご、
いっつっぺあっさげ！！！！
いっつでも来てけるの～！！！！

緑を活用した治水手法の技術開発と普及活動

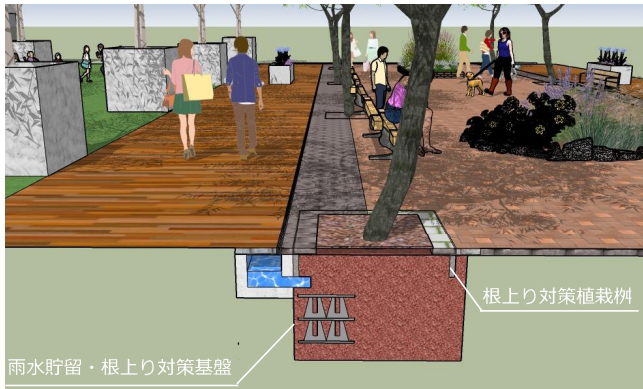
HINODE

■ 整備手法のイメージ



都市空間における雨水流出抑制は、従来型の整備手法では広い土地や地下空間・多くのコストを要するものでした。私たちは、限られた都市空間の中で、緑を上手く活用し、植栽帯部の地下空間で流出抑制をしつつ、一時貯留した雨水を緑の健全な生育に役立てる「水循環」を実現して、流出抑制機能と緑による快適空間形成を両立させる整備手法の技術開発と普及活動に取り組みます。

■ コンセプト① 水の循環_植栽基盤の有効活用

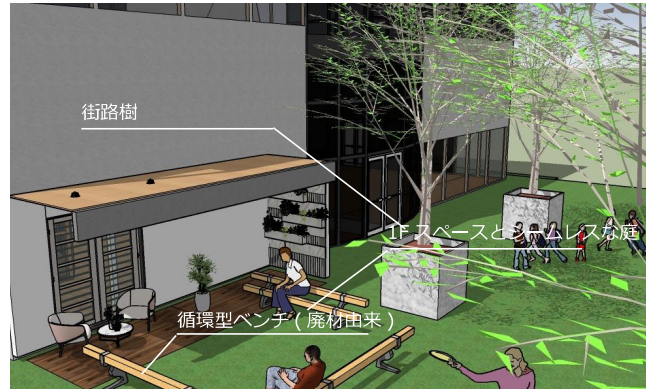


植栽帯は、地盤改良で地中に一定の空隙が確保できる状態とすることで、豪雨時に雨水を一時貯留し、浸水被害の抑制に寄与しつつ、その水を樹木の生育に活用する水循環システムを実現します。

■ 技術開発 流出抑制効果の見える化



■ コンセプト② 緑の循環_樹木の2次利用



憩いの場を演出するベンチ等のファニチャーは、役目を終えた街路樹を原材料とする天然木材と、金属廃材を原材料とした鋳物の組み合わせで、集う人々やこどもに循環型社会を意識付けます。

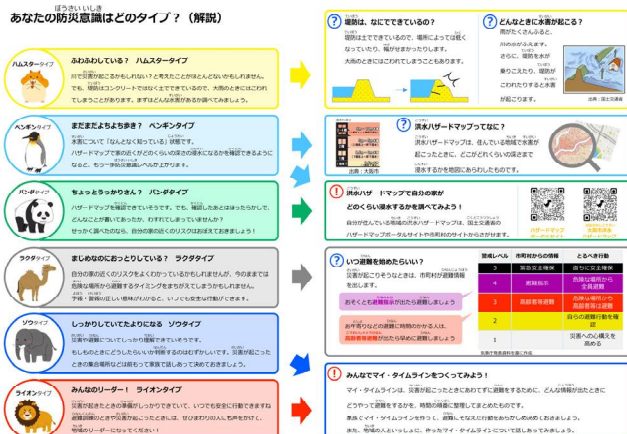
■ 普及活動 自治体等での勉強会開催



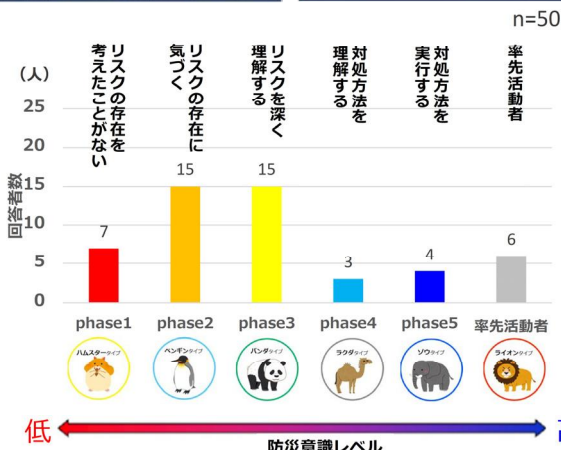
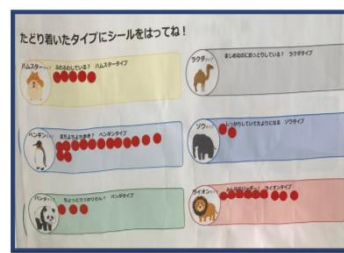


防災アニマル診断とは！？

ぼうさいいしき
あなたの防災意識はどのタイプ？（解説）



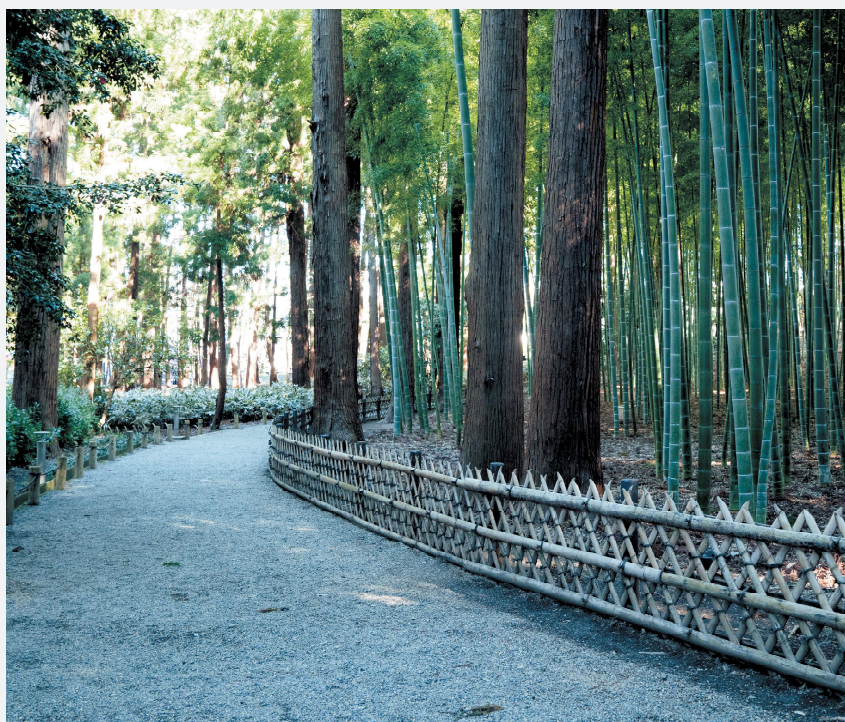
防災イベント（主催：大和川河川事務所）



水害リスクを認識し、目指せライオンタイプ！

雨水を地下水に変える。

わたしたちは、雨水を地中に浸透させていくことで、
流域治水活動に貢献し水害を地球の資産に変えていきます。



偕楽園 孟宗竹林付近

「日本三大庭園」のひとつである、茨城県水戸市「偕楽園」。江戸時代に各地の大名が気づいた名園は、世界各地から注目される場所です。偕楽園周辺は、千波湖、桜川、また、那珂川と水場に囲まれており稲穂が実る地域の豊かさを示しています。一方で、多くの流域治水プロジェクトも進められております。私たちは、世界中に愛される場所が、かつては五穀豊穡の為に必要とされた「雨水」を地球のために地下水として貯められるよう、透水性のある舗装材を用い貢献する活動をしております。



東京都：新木場公園

都内荒川河口近く、ベイエリアである都民憩いの公園へ水害の可能性を回避するお手伝いをいたしました。



物流施設での防災拠点化と防災協定の促進、 建設前の浸水リスク評価

マルチテナント型物流施設における防災拠点化（構造・設備）

防災対策

避難が必要な場合に利用可能な
かまどベンチや非常用便槽を備えています



非常用便槽



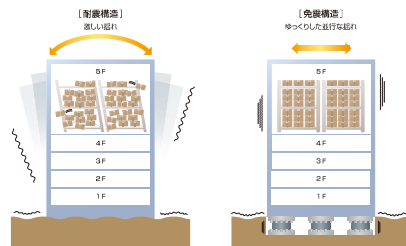
かまどベンチ

免震構造の採用

免震構造を採用し災害被害を軽減、
できるだけ短期間でテナント企業様の
事業を再開できるように努めます



免震ピット
(DPL 流山IV)



自治体との取り組み

(防災協定締結状況)

全国 17 の自治体 (25 棟) と防災協定を締結

No	物件名	締結日	自治体名	協定書タイトル
1	DPL 流山	2020/3/16	神岡市	地震等の災害発生時における市民生活の支援に関する協定書 (カマドベンチ・トイレ・シャワー・お風呂)
2	DPL 新富田II	2020/6/9	神岡市	地震等の災害発生時における市民生活の支援に関する協定書
3	DPL 若手花巻	2020/7/9	肥後市	地震等の災害発生時における市民生活の支援に関する協定書
4	DPL 流山II	2020/11/11	行田市	地震等の災害発生時における市民生活の支援に関する協定書
5	DPL 流山III	2020/12/10	佐野市	地震等の災害発生時における市民生活の支援に関する協定書
6	DPL 北下田	2021/2/5	出羽市	地震等の災害発生時における市民生活の支援に関する協定書
7	DPL 新富田	2021/2/25	野田町	地震等の災害発生時における市民生活の支援に関する協定書
8	DPL 若手花巻II	2021/11/12	若手花巻市	災害発生時における市民生活の支援に関する協定書
9	DPL 長野千曲	2022/3/30	長野県千曲市	災害発生時における避難者の受け入れに関する協定
10	DPL 平塚 DPL 新富田I DPL 新富田II DPL 新富田III DPL 小田原	2022/4/15	神奈川県	災害発生時における市民生活の支援に関する協定
11	DPL 三浦II DPL 三浦III	2022/9/28	東京都三浦市	災害発生時における一時避難場所としての利用に関する協定書
12	DPL 平塚	2023/1/10	神奈川県平塚市	災害発生時における市民生活の支援に関する協定書
13	DPL 文庫時代	2023/1/17	埼玉県川口市	災害発生時における市民生活の支援に関する協定書
14	DPL 若手花巻II	2023/3/15	若手花巻市	地震等の災害発生時における市民生活の支援に関する協定書
15	DPL 若手花巻III	2023/3/24	若手花巻市	災害発生時における市民生活の支援に関する協定書
16	DPL 若手花巻I DPL 若手花巻II DPL 若手花巻III	2023/4/5	埼玉県川口市	災害発生時における市民生活の支援に関する協定書
17	DPL 新富田II	2023/10/19	長野県川内町	災害発生時における市民生活の支援に関する協定書
18	DPL 流山IV	2024/6/24	茨城県境町	災害発生時における市民生活の支援に関する協定書

テナント企業との取り組み

(共用部・災害備蓄など)

地域住民も利用できる共用部 (共用トイレ、コンビニ、災害備蓄品)



入居テナント合同の防災訓練の実施



流域治水オフィシャルサポーターに認定

当社がこれまで開発した一部の物流施設において全国 17 の自治体と防災協定の締結、建設前の
浸水リスク評価や造成時の敷地嵩上げなどによる浸水対策を積極的に進めていることが評価され認定



- ・災害発生時の早期事業復旧を可能とするため、電気設備や宅盤 (建物が接する地面) をかさ上げするなど、BCP (事業継続計画) にも対応
- ・2 階には就労環境向上へ館内従業員の休憩スペース (ラウンジ) を設置
- ・千曲市と「災害発生時における避難者の受け入れに関する協定」を締結
- ・災害発生の際、1・2 階の共用部の一部を開放し、避難者を最大 48 人受け入れ

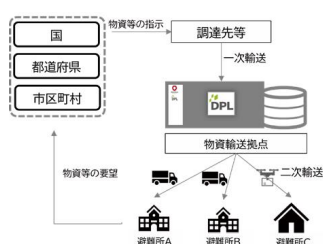
【不動産開発における水害リスクの確認】

事業用投資委員会の審議対象となる大型不動産開発案件について、一定の浸水想定区域以上の浸水に該当する場合、
専門会社の評価を得て、投資判断を実施。

また、大型の賃貸物流施設の開発・運営をメインとする物流施設の開発においては、用地検討の際に、利便性など
物流用地としての適正と併せて、水害リスク情報 (ハザードマップ、浸水想定など) を確認した上で決定。

マルチテナント型物流施設 (DPL) の 災害時支援拠点としての活用について

【物資輸送拠点としての利活用】



地域住民の方の一時避難所として
活用していただくのはもちろん、
行政からの支援物資の受け入れや
各地の避難所に分配するための
2 次拠点として利用します

防災協定を締結した拠点の一例 (DPL 境古河)

2024 年 6 月 24 日茨城県境町と、
災害発生時の応急対策を円滑に遂行するために
「災害発生時における支援協力に関する協定書」を締結しました。



◆ 内容

- ① 近隣住民の一時避難場所としての提供
- ② 支援物資の一時保管、集約場所としての提供
- ③ 一時避難住民のための駐車場施設としての提供
- ④ 本協定による支援として行うことが相当と認めたもの

広報



一般財団法人 北海道河川財団
RIVER CENTER of HOKKAIDO

流域治水オフィシャルサポーター 活動記録

講演会の開催



知りたい!
さっぽろの大雨災害

企画・制作:北海道河川財団

書籍の発行



流域治水
ロゴマーク



名刺への掲載

流域治水オフィシャルサポーターとしての取組実績・一例

認定年度 令和5年度

令和5年度 7月～3月に、WEBページにおいて、流域治水WEBページのリンクを紹介し、道民に対して流域治水の趣旨、取組を周知。

8月、流域治水の理念を含む一般向け冊子「知りたい!さっぽろの大雨災害」を発刊し、市民に対して流域治水の趣旨を周知。

7月及び9月、RIC講演会において、流域治水に関するパネルを展示し、参加者に対して流域治水の趣旨を周知。

令和6年度

WEBページにおいて、流域治水WEBページのリンクを紹介し、道民に対して流域治水の主旨、取り組みを周知。

RIC講演会において、流域治水に関するパネルを展示し、参加者に流域治水の趣旨を周知し、概要をHPに掲載。

名刺に流域治水のロゴマークを掲載。

パネル展の開催



令和5年度 第1回RIC講演会
パネル展示



令和5年度 第2回RIC講演会
パネル展示



令和6年度 第1回RIC講演会
パネル展示

流域治水オフィシャルサポーター取組実績



広報活動

R5.7～

広報資料での周知活動

- ・チラシやパネル等への情報掲載
- ・広報資料の配付・掲示、アナウンス



R5.8～

当法人 HP

- ・流域治水の必要性、意義等の説明
- ・取組み内容を HP により周知

当法人 HP 流域治水について



QRコードを
スマホで読めばいい!



周知活動

R5.7.29 R6.7.27

天竜川総合学習館かわらんべ



パネル展示

チラシ配布

R5.12.6-7

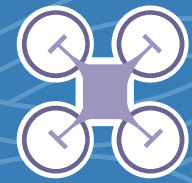
「建設技術フェア 2023in 中部」

- ・パネルの展示、クリアファイルの配布
- R6 年度も出展し周知予定です。(R6.11.28-29)



実施状況

クリアファイル配布



R5.10.19-20

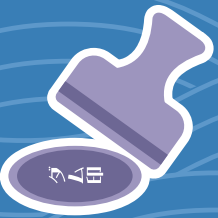
自治体職員へのドローン研修

- ・木曽川の上流に位置する木祖村において、災害時の被災状況早期把握等、ドローン活用を目的とした研修を実施



座学研修

実地研修



ダム印での周知活動 R6.4～

流域治水の要であるダムについて、広く一般の方に理解していただくよう、御朱印（ダム印）による広報を計画。中部地方整備局管内の直轄管理ダム、水資源機構中部支社の管理する治水ダム14ダム及び建設中2ダムについてダム印を作成しました。

14ダムは令和6年4月1日より各ダム管理所で配布しています。

建設中の2ダムは令和6年7月20日、22日より建設事務所、道の駅等で配布しています。

ダム印流域治水広報用グッズを作成して、配布イベントを道の駅等の協力により実施しました。

ダム印（流域治水）HP、Xによる広報も行っています。

また、NEXCO 中日本様の協力により28箇所のSA、PAにある広報モニター（47箇所）で広報を行っていただきました。

ダム印配布ページ



ダム印 X @DAMUIN_INFO



丸山ダムでのダム印設置状況



第19回水害サミット

水害を経験した全国の地方自治体のトップが対策などについて意見交換する「第19回水害サミット」(実行委員会、毎日新聞社主催)が17日、東京都千代田区の千代田市立大会館で開かれた。第1部は「公共と民間の連携で取り組む水害対策」、第2部は「水害リスクをどう減らすか」と題し、水害リスクを減らすための取り組みについて、自治体と民間企業、専門家らが意見を交わした。

開会あいさつ
水害サミットは、水害を経験した自治体のトップが、水害対策について意見交換する。第1部は「公共と民間の連携で取り組む水害対策」、第2部は「水害リスクをどう減らすか」と題し、水害リスクを減らすための取り組みについて、自治体と民間企業、専門家らが意見を交わした。



水害サミットは、自治体と民間企業のトップが、水害対策について意見交換する。

事例 宮城県仙台市
仙台市は、水害対策として、河川沿いの堤防を強化し、また、水害時の避難場所として、市民センターや学校などを活用している。また、水害時の避難場所として、市民センターや学校などを活用している。

教訓基に官民連携で備え

水害を経験した自治体のトップが、水害対策について意見交換する。第1部は「公共と民間の連携で取り組む水害対策」、第2部は「水害リスクをどう減らすか」と題し、水害リスクを減らすための取り組みについて、自治体と民間企業、専門家らが意見を交わした。

事例 宮城県仙台市
仙台市は、水害対策として、河川沿いの堤防を強化し、また、水害時の避難場所として、市民センターや学校などを活用している。また、水害時の避難場所として、市民センターや学校などを活用している。

事例 宮城県仙台市
仙台市は、水害対策として、河川沿いの堤防を強化し、また、水害時の避難場所として、市民センターや学校などを活用している。また、水害時の避難場所として、市民センターや学校などを活用している。



高橋秀樹 北海道釧路市市長	細川雅弘 北海道札幌市市長	黒須賀 宮城県仙台市市長	保科輝雄 宮城県仙台市市長	白岩孝夫 山形県山形市市長	佐藤俊晴 山形県山形市市長	神達志志 茨城県水戸市市長	高橋邦芳 新潟県新潟市市長	稲田亮 新潟県新潟市市長	滝沢亮 新潟県新潟市市長	三木正夫 長野県長野市市長
白鳥孝 長野県長野市市長	泉谷崇代 静岡県静岡市市長	草野博昭 静岡県静岡市市長	川田翔子 静岡県静岡市市長	高江賢史 静岡県静岡市市長	伊東香織 岡山県岡山市市長	池田豊 山口県山口市市長	飯田洋河 山口県山口市市長	武井政一 福岡県福岡市市長	松野美智子 大分県大分市市長	松岡年人 熊本県熊本市市長

増えた知見や技術力生かす
水害を経験した自治体のトップが、水害対策について意見交換する。第1部は「公共と民間の連携で取り組む水害対策」、第2部は「水害リスクをどう減らすか」と題し、水害リスクを減らすための取り組みについて、自治体と民間企業、専門家らが意見を交わした。

事例 新潟県新潟市
新潟市は、水害対策として、河川沿いの堤防を強化し、また、水害時の避難場所として、市民センターや学校などを活用している。また、水害時の避難場所として、市民センターや学校などを活用している。

事例 新潟県新潟市
新潟市は、水害対策として、河川沿いの堤防を強化し、また、水害時の避難場所として、市民センターや学校などを活用している。また、水害時の避難場所として、市民センターや学校などを活用している。

事例 新潟県新潟市
新潟市は、水害対策として、河川沿いの堤防を強化し、また、水害時の避難場所として、市民センターや学校などを活用している。また、水害時の避難場所として、市民センターや学校などを活用している。

事例 新潟県新潟市
新潟市は、水害対策として、河川沿いの堤防を強化し、また、水害時の避難場所として、市民センターや学校などを活用している。また、水害時の避難場所として、市民センターや学校などを活用している。

災害に強い地域の構築へ



土砂が流入した田んぼ。新潟県新潟市で2022年8月、西郷生野町。水害で田んぼが流入した田んぼ。新潟県新潟市で2022年8月、西郷生野町。

事例 新潟県新潟市
新潟市は、水害対策として、河川沿いの堤防を強化し、また、水害時の避難場所として、市民センターや学校などを活用している。また、水害時の避難場所として、市民センターや学校などを活用している。



水害で田んぼが流入した田んぼ。新潟県新潟市で2022年8月、西郷生野町。水害で田んぼが流入した田んぼ。新潟県新潟市で2022年8月、西郷生野町。

事例 新潟県新潟市
新潟市は、水害対策として、河川沿いの堤防を強化し、また、水害時の避難場所として、市民センターや学校などを活用している。また、水害時の避難場所として、市民センターや学校などを活用している。

事例 新潟県新潟市
新潟市は、水害対策として、河川沿いの堤防を強化し、また、水害時の避難場所として、市民センターや学校などを活用している。また、水害時の避難場所として、市民センターや学校などを活用している。

流域治水

岡山県矢掛町の防災イベントに参加

防災マンガ展示



☑ 水災害を視覚的に理解して、
自分事化するための展示を実施

流域治水に関する情報提供



ロゴマーク
ステッカーを配布

☒ **流域治水**を知り、自分でできる
 水災害対策を考える機会を提供



川の水はどこから?

矢野郡には小田川をはじめとするたくさんの川があります。では、その川の水はどこから流れてくるのでしょうか？

正解は・・・**流域に降った雨**です。

雨などの水は、山の高いところから、川などの低いところに流れます。

その雨が集まる範囲を「**流域**」といいます。

国土地理院作成
平成25年現在
国土地理院作成
平成25年現在

洪水・氾濫はなぜおこる?

大雨や台風など、一度にたくさんの雨が降ると一気に水が流れこんで、普段よりも水の量が増え、川の水位が上がることがあります。これを「**洪水**!」といいます。

洪水は、安全に流れる水の量が決まっているので、それを超えること「**氾濫**」します。

いついかならぬ洪水・氾濫を防ぐための「治水」

洪水や氾濫などによる水災害を防ぐことを「治水」といいます。

国土交通省作成
平成25年現在
国土交通省作成
平成25年現在

山・谷間を守る治水対策

山・谷間に発生する土砂崩れ、崖崩れ、土石流、浸食・地盤沈下、河床変動、河川敷の侵食などを防ぐために、治水対策を実施しています。

山・谷間に発生する土砂崩れ、崖崩れ、土石流、浸食・地盤沈下、河床変動、河川敷の侵食などを防ぐために、治水対策を実施しています。

やっぱりほしい
「**流域治水**」って？

市町村

川の管理をしている国や県、市町村は
これまで、川から水が溢れないよう、治
水対策を進めてきました。

しかし、気候変動によって雨の降り方
や量がわり、川の中干りでの治水では、
氾濫などの水災害を防ぐことが難しく
なっています。

そこで、川の水が集まる流域全体で水災害を軽減させる、
「**流域治水**」という考え方が必要になってきました。

流域治水とは、以下の3本柱に基づいて、流域に関わるあら
ゆる関係者が協働し、流域全体で治水対策を行うことです。

①氾濫をできるだけ防ぎ、減らすための対策
②被害対象を減少させるための対策
③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

みんなで取り組む流域治水

①氾濫をできるだけ防ぎ、減らすための対策
氾濫の危険を軽減する

大雨の時に！

②被害対象を減少させるための対策
氾濫の危険を軽減

③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
氾濫の危険を軽減

- 25 -

水害や土砂災害の危険性を
自分事としてとらえてもらうために

●「災害の恐ろしさ」を伝える努力 ～ 航空測量会社だからできること 災害緊急撮影 ～

令和6年9月20日から大雨による被害状況
(2024年9月能登半島豪雨)



災害発生時の緊急撮影による情報発信

弊社は、航空機を保有する航空測量会社であるため、**大きな災害が発生した際には、自主撮影により斜め写真撮影や航空レーザ計測を実施しています。**これら緊急撮影を実施した場合には、航空関係者による撮影とともに、コンサルタント技術者による写真の選別、位置図やコメントの作成などを即日で実施し、ホームページに公開しています。

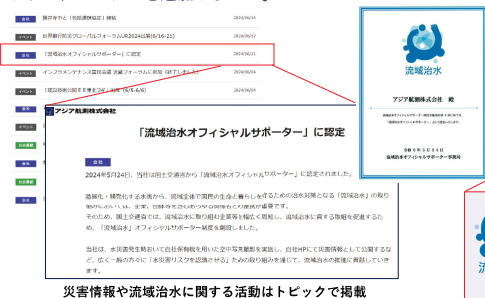
行政機関への情報提供とともに、一般市民にも災害の恐ろしさをいち早く伝えることで、流域治水への取り組みの一助となることを期待しています。



●「流域治水」というキーワードを浸透させるための取り組み

自社HPでの情報発信

流域治水に関する取り組みは**自社ホームページのトピックに掲載**しています。
また、従来公開していた**災害関連情報に流域治水オフィシャルサポータのバナーを追加**しました。



流域治水ロゴマークの掲載

社員の名刺に流域治水のロゴマークを選択できるように注文システムを改修しました。
また、防災分野の将来の担い手となる大学生に対し、学会等のイベント開催時に災害の恐ろしさ伝える発表を行うとともに、配付資料には流域治水ロゴマークを配置し流域治水オフィシャルサポーター行頭についても説明をしています。



●流域治水の取り組み効果の「見える化」 ～ 流域治水DXシステム ～

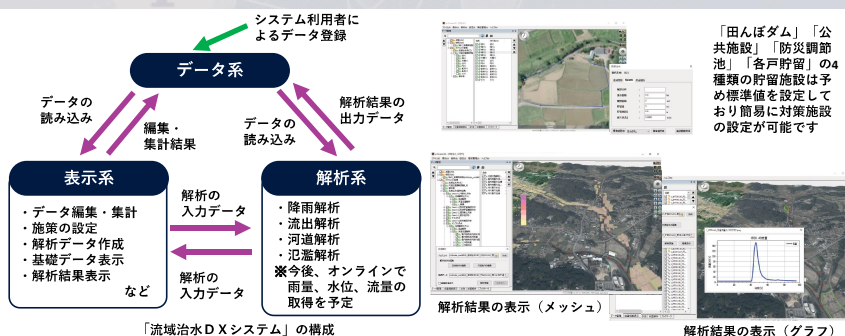
流域治水の施策を検討・実施する上では、以下に示す課題があります。

- ▶ 施策の検討、実施状況の把握に必要なデータが散在
 - ▶ 多様な施策の可能性・緊急性が明確でない
 - ▶ 施策の実施可能性の把握や施策効果量が定量的に示されていない
 - ▶ 合意形成のための施策実施状況やその効果量の提示が必要
 - ▶ 流域治水の実施主体が多様（国、都道府県、市町村、民間）など
- そのため、流域内のデータを一元管理し、地先や本支川の流出、河道の流れ、氾濫までの現象を解析できるモデルを構築し、対策施設の位置対策効果を設定し、解析モデルに反映するとともに、様々な降雨規模水災害リスクの時系列変化を表示できるシステムの構築が求められています。

アジア航測株式会社と株式会社建設技術研究所は共同で、**流域での合意形成を支援する「流域治水DXシステム」**を開発し、2024年2月28日にプレスリリースしました。

弊社は、本システムを活用し、流域治水の推進に寄与していきます。

弊社は、本システムを活用し、流域治水の推進に寄与していきます。



地域密着



宮坂建設工業株式会社は



流域治水

流域治水

オフィシャルサポーターです！

市民参加型の 地域防災訓練

における周知活動

毎年実施している弊社主催の市民参加型地域防災訓練において、流域治水の内容を広く周知するためにパネルの展示や、リーフレットの作成・配布を行うことで、来場者に流域治水について理解を深めていただいております。



※この取り組みは、内閣府総合科学技術・イノベーション会議の戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「スマートネットワークの構築」を実施している北海道大学と連携して実施されています。



流域治水に関する 講習会の開催

流域治水オフィシャルサポーター認定企業として、流域治水の内容を関係者に広く周知するために、弊社顧問の中央大学研究開発機構 山田正教授ならびに北海道大学 大学院工学研究院 山田朋人教授を招いて講習会を開催しております。



防災活動への 積極的参加

地域防災訓練や親子防災教室の開催、災害時の炊き出し支援のほかにも、北海道開発局や北海道などの発注者との連携のもと協力会社を含めた24時間防災体制の確立、非常食の備蓄、避難所としての本社屋の提供、自治体等や建設業協会・協力会社との防災協定の締結、地域住民や学生などの防災センター視察学受入・防災活動の紹介など、様々な防災活動を積極的に実施しております。



ホームページによる 情報の発信

流域治水オフィシャルサポーターの認定や流域治水に関する講習会など、流域治水に関する情報をホームページ上で発信し、弊社の取り組みの他にも国土交通省公式ホームページリンクやロゴを紹介することで協力会社および一般市民に対して流域治水の考え方や取り組みを周知しております。

帯広市から 水防協力団体に認定 されました

令和6年3月5日(火)、水防管理者である帯広市より水防協力団体として認定されました。これを受けて3月29日(金)に帯広市役所において認定書交付式が執り行われました。



創業大正11年

技術と信頼で明るい未来を創造する

宮坂建設工業株式会社

MIYASAKA CONSTRUCTION & ENGINEERING

■本 社／帯広市西13条南14丁目1番地2 TEL(代表) 0155-23-9151 番
■札幌支社／札幌市北区北14条西3丁目2番12号 TEL(代表) 011-736-1820 番
■釧路支店／釧路市新橋大通3丁目2番126号 TEL 0154-465-7223 番
■東京支店／東京都品川区五反田3-9-23丸和ビル TEL 03-6431-8838 番



www.miyasaka-cc.co.jp

りゅうちるネットワーク 年間活動行事 吉田川・高城川流域治水

♡ 1月10日

神事 無事故無災害 豊穰祈願
川の流に感謝



りゅうちるネットワークは流域治水の推進に向け 令和5年4月に設立。近年の頻発激甚化する災害や、これまでの被災経験を踏まえ、先人が乗り越えてきた歴史に学び、命と生業を守り次世代へ繋いでまいります。

「吉田川・高城川(東北初となる特定都市河川指定 R5.7.18)」



♡ 3月15日

吉田川高城川みずから
クリーンアップ活動



いままでも これからも “みず”から守る流域治水

地域を“みず”から守る流域治水で命と生業を守る安心・安全な未来へ！



♡ 11月活動企画会議



10月流域治水収穫祭



マスコットキャラクター
りゅうちる

全体は水の形
ハートを抱えて
守っているイメージ



吉田川
鳴瀬川

鶴田川

山の源流から流れ出る吉田川と鳴瀬川、そして鶴田川。過去に何度も大雨で川が氾濫し、浸水などの災害がおこりましたが、その都度 みんなで協力し立ち上がってきました。私たちは「吉田川・新たな水害に強いまちづくり」を目指します。

水の恵みで、大地や海に命を与えます。水を大切にすることが 自らの命を守ります。

この豊かな水を未来につなぐために みんなで安心安全なまちづくりをすすめよう！



♡ 11~12月草刈り

水から守る！自らを守る！
地域を“みず”から守る流域治水

水辺から地域を元気に

水辺・29プロジェクト

(R6.11.)

環境

<MS&ADインシュアランスグループホールディングス取組紹介> 「MS&ADグリーンアースプロジェクト」グループ社員のボランティア活動、 「グリーンレジリエンス」の分析・P R

1 グループ社員のボランティア活動 「MS&ADグリーンアースプロジェクト」

「MS&ADグリーンアースプロジェクト」で流域治水に関わる環境保全活動を実施、活動の進捗はSNS（インスタグラム）や社外HPの動画で情報公開。

- ・熊本県球磨川流域：熊本県立大学の研究「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会 地域共創拠点」への参画と、湿地保全による防災減災取組み、生物多様性の保全及び地方創生
- ・千葉県印旛沼流域(印西市,白井市)：台地と谷（谷津）の保全を通じた水循環改善



MS&ADグリーンアースプロジェクト活動写真



球磨川
インスタQRコード

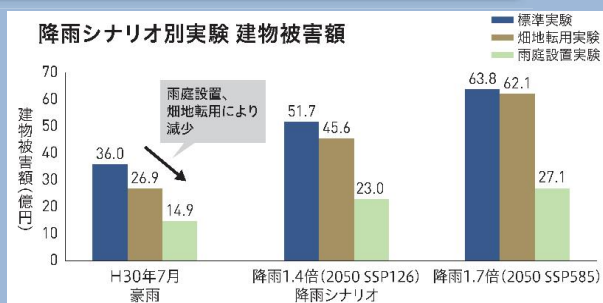


印旛沼
インスタQRコード

2 「グリーンレジリエンス」の分析・P R

「雨庭」の水災低減効果の分析を行い、「グリーンレジリエンスレポート（TCFD/TNFD対応）」で公開。流域治水にもつながる、地域の自然を活用した安心・安全のコンセプトについて、動画を作成し当社公式サイトでPR

【雨庭の設置による水災低減効果の分析】



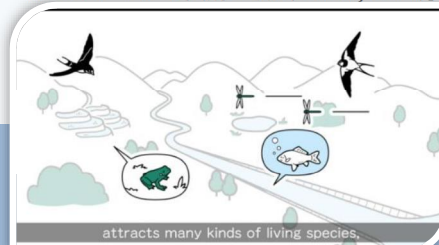
SUSTAINABILITY 持続可能な社会

GREEN RESILIENCE

自然環境の保全と保険との関わりについて

MS&AD MS&ADインシュアランスグループ

MS&ADグループは「地球環境との共生 (Planetary Health)」を重点課題の



持続可能性向
て気候変動
「グリ



アニメーション動画はこちら

詳細はレポートをご覧ください



自然環境の再生と防災・減災、地方創生の同時実現を目指す、
三井住友海上の取組をご紹介します

1 流域治水に関連する研究活動への参加

流域治水に関連する研究活動への参加を通じて、
自然環境の再生と防災・減災、産業創生を同時に実現する
流域治水のあり方を研究しています。

2 熊本県球磨川上流における湿地の保全活動

MS&ADグループの共通取組「MS&ADグリーンアースプロジェクト」では、
流域治水の実現に向け、社員がボランティア活動に参画しています。

<活動で目指すゴール>

- ✓ 湿地の雨水貯留効果の向上による
流域の洪水緩和
- ✓ 放棄された湿地の環境保全・再生
による生物多様性の回復



詳細はこちら



3 本社ビル施設による都市型洪水の緩和への貢献

三井住友海上の駿河台ビル(本社ビル)では、屋上庭園や雨水槽により、
都市型洪水の緩和に貢献しています。

<具体的な効果>

- ✓ 容量3,500tの雨水槽による
内水氾濫の抑制
- ✓ 屋上庭園の土壌による蓄雨効果
(約2,500㎡の面積で推計約750㎥の雨水を貯留)



詳細はこちら



その他

生態系保全やかわまちづくりのサポートを通じて流域治水を推進する

公益財団法人リバーフロント研究所 リバフロサポートセンター

安全で豊かな河川と水辺、にぎわいのある地域づくりの実践をサポート

リバフロサポートセンターは、リバーフロント研究所が強みとするテーマの情報、技術、研究成果、また川づくりの楽しさややりがい等を社会に発信し、水辺とまちのパートナーとして各地域の担い手を支援します。（2022年7月設立）

□ リバフロサポートセンターの役割：



詳しくはこちらから

□ サポートセンターからのアウトプット

現場の生の声、人材ネットワーク、職員スキルアップ

研究グループ

自然環境グループ

ネイチャーポジティブ、
河川水辺の国勢調査、
河川生態学術研究、
多自然川づくり、自然再生、
河川環境管理、生態系ネットワーク、
3次元川づくり、新技術 etc.

水循環・まちづくり・防災グループ

かまちづくり、小さな自然再生、
高規格堤防、高台まちづくり、
流域マネジメント、地下水マネジメント、
海岸利活用 etc.

リバフロサポートセンター

<技術開発・普及>

技術の開発・普及啓発

新テーマ研究、支援&助言
リバフロ研究所報告、リバフロ研究発表会

<情報提供>

ナレッジ集約&情報発信

ウェブサイト、SNS(twitter等)
機関誌Riverfront、
出版物等の知財管理 etc.

<技術指導・地域連携>

実務者&市民の人材育成

多自然川づくりセミナー
小さな自然再生研修会
かわまちづくりオンラインサロン
ソーシャルデザイン研究会 etc.

<国際協力>

日本の経験の海外普及

台湾技術交流
ARRN、その他国際交流

<まずは4テーマで始動>

多自然川づくり
サポート

かわまちづくり
サポート

河川環境管理シート
サポート

小さな自然再生
サポート

□ 研究グループからのインプット

研究活動で得た情報・知見や成果（手引き、事例集等）

多自然川づくりサポート

※ 多自然川づくりサポートセンター

多自然川づくりの情報提供、技術支援、セミナー等を開催。



「令和6年度 高知県自然豊かな水辺の工夫研究会」において多自然川づくりの講演（2024年5月）

「大河川における多自然川づくりのウェブセミナー」シリーズ開催による多自然川づくりの普及（これまで15回開催）

かわまちづくりサポート

かわまちづくりの普及、各種お悩みについてサポート。



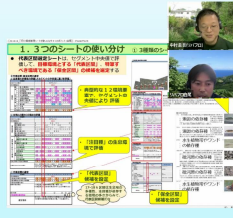
岐阜県犬山市においてかわまちづくりをテーマに講演（2023年12月）



台湾大学視察団の藤田川案内（2024年7月）

河川環境管理シートサポート

河川環境管理シートの作成や活用方法の相談をサポート。



ソレノセミナー情報提供を通じた河川環境管理シートの作成及び活用の助言



国土交通省職員向け河川環境管理シート研修講師（2024年9月）

小さな自然再生サポート

小さな自然再生の情報提供やアドバイス、研修会等を運営。



研修会in東京（2023年11月） 研修会in福井（2024年5月）
市民向けのシリーズ研修会の支援（これまで26回開催）

国土交通省職員向けの小さな自然再生を活用した川づくり研修支援（2024年9月）

その他サポート（国際交流）

海外からの河川・水辺の視察団を案内し技術交流。



韓国河川協会視察団の北陸・近畿地方技術視察を支援（2023年10月）



英国バーミンガム大学視察団の東京の水辺案内（2024年4月）

その他サポート（環境教育）

中学生や高校生の河川・水辺の学習支援。



福井県内中学校の東京の水環境に関する探究学習支援（2024年3月）



福井県内中学校の東京の水環境に関する探究学習支援（2024年3月）

令和7年

1/23 木

【13:30～16:00】

国土交通省中央合同庁舎

3号館 10階会議室

(東京都千代田区霞が関 2-1-3)

WEB 配信 併用

※Zoomでの配信となります。

令和6年度

水循環企業連携フェア

水循環企業連携フェアは、有識者の講演や水循環 ACTIVE 企業の先進的な取組事例の聴講などを通じて水循環 ACTIVE 企業の取組の深化や、水循環 CHALLENGE 企業の取組を促すことを目的として開催いたします。

イベント内容

【第1部】 講演等

13:30～

- ◆ 沖教授による基調講演
- ◆ 企業と自治体が連携した取組事例の紹介
- ◆ クロストーク ～企業と自治体がともに実施する水循環～
モデレーター 辻村教授

【第2部】 水循環 ACTIVE 企業や 自治体によるパネルセッション

15:00～

※WEB での配信は第1部までとなっております。

※第2部への参加は、水循環 ACTIVE 企業又は水循環 CHALLENGE 企業のほか、自治体、NPO、業界団体等のみにとなります。



沖 大幹 教授

東京大学 総長特別参与
工学系研究科教授



辻村 真貴 教授

筑波大学 大学執行役員
生命環境科教授

【主催】 内閣官房水循環政策本部事務局

【共催】 国土交通省



お問い合わせ先

内閣官房水循環政策本部事務局
(国土交通省水管理・国土保全局水資源部水資源政策課内)

TEL) 03-5253-8392
E-mail) hqt-water.corpactive@ki.mlit.go.jp
HP) https://www.cas.go.jp/jp/sesaku/mizu_junkan/category/mizu_kan_active.html

お申し込みはこちら

【申し込み締切り】

令和6年12月20日(金)

【URL】<https://forms.gle/jzU4KXL4qxMuBGdF8>

